

暮らしを変える ウッド・チェンジ

～木づかいが 森をよくする 暮らしを変える～

日本の国土の約3分の2を占める森林。そこから生まれる木材を建築物や暮らしの中の家具・雑貨等に活用することで、経済的な循環を生み、地域経済の活性化に繋がるとともに、それを元手に森林整備が行われることで、地球温暖化防止、国土保全といった多面的機能の発揮に繋がります。

10月は「木材利用促進月間」です。「身近なものを木に変える」ウッド・チェンジを正に体現した暮らしを変えるモノ達を「ウッドデザイン賞」受賞作品から「衣・食・住・地域」の視点でご紹介します。

各受賞作品の開発に携わられた方々に、開発秘話とともに今後の展望を熱く語っていただきました。

皆さんも、情熱やストーリー溢れる木を使ったモノ達で、暮らしの「ウッド・チェンジ」ははじめませんか。



もくいと
木糸

2017年受賞

和紙の布の会社としての強みを活かした木の糸開発

— 元々は何を作っている会社なのか教えてください

28歳の時に、和装の足袋を製造する家業を継ぎました。そのタイミンで、織機などを入れ替え、合理化を図ったことで工期に余裕が生まれたので、新たに、和紙を細く割いて、撚って、糸にしたものを織った「和紙の布」を製品化しました。折しも、中国での繊維生産が増大し、国内の織物業界はその影響を受けて倒産が相次ぎましたが、当社は、和紙の布で生き残ることができました。

— 原料に木材を用い始めたきっかけを教えてください



株式会社 和紙の布 (大阪府阪南市)
専務取締役 阿部正登さん

2011年に、偶然にも林野庁の施策で間伐材の利用を進めるという話を聞きました。それまで、木を伐採することは悪いことだと思っていましたが、山に放置される木を何とか使いたいと思うようになりました。

— 製品化の過程で苦労された点を教えてください

木材は、和紙の原料のマニラ麻に比べ繊維の長さが3分の1ほどで、糸を紡ぎだしても切れやすいので、製品化は苦難を極めました。一年半をかけてやっと木材100%の糸ができましたが、強さを確保するために分厚いホロボのようになり、バッグくらいの用途しか見いだせませんでした。そこで、他素材の繊維を混ぜれば、強度を確保できて薄いものができ、用途が広がる

ことで木材使用量も増えるはずと発想を転換しました。それでも50%以上は木材を原料とすることにこだわりながら、様々なタイプの布を生産しています。

— 最近どんな木糸製品が見られますか

都内の小学校8校の体育館のスクリーンを木糸で作って納品しました。また、この製法ではセルロースの原料

を特定できるので、神社の境内のご神木でアイテムを作りたいなどといったニーズにも応えられます。

— 今後の夢を教えてください

地域の木を用いた地域オリジナルの木糸が作られるので、47都道府県の木糸を作れたら良いですね。地域材生まれの木糸で、地域の誇りになるような製品が生まれるお手伝いできれば嬉しいです。





ワイングラス

2019年受賞



(株) 匠頭漆工 (石川県加賀市)
専務取締役 久保出貴雄さん

漆器の木地づくりの技を活かしたワイングラスづくり

— 元々は何を作っている会社なのか教えてください

加賀の伝統工芸の「山中漆器」は分業制なのですが、その製造工程のうち木から器などを掘り出す「木地師」が、祖父の代からの家業で、自分は3代目になります。プロ野球選手を目指していましたが、社会人野球3年目で、バットから器に持ち替えました(笑)。

— なぜワイングラスを木で作ろうとしたのですか。大変だった点を教えてください

木地師の技術と木そのものの色味をPRするような商品を作りたいと考えました。ワイン好きの父を見ていてワ

イングラスが面白いと思ったのですが、製品化は苦難の連続でした。割れたり歪んだりするのはもちろんのこと、塗料に車のボディにも用いられるガラスコーティングを用いたのですが、木との馴染みが悪く、木の伸縮でひびが入ってしまうなど、なかなかうまくいきませんでした。

— 製造工程を教えてください

まずは木から、ワイングラス全体を粗く形を掘り出した後、グラスの内側を削り出し、その後外側を削ります。内側から削るのが、割らずに掘り出すコツなのです。最後に持ち手の部分を慎重に削りだして磨いた後にコーティングをします。一般的なお椀だと2工程なので、一日で100個ほど作れますが、ワイングラスは10工程。一日20

個と、時間と手間と根気の要る作業となります。

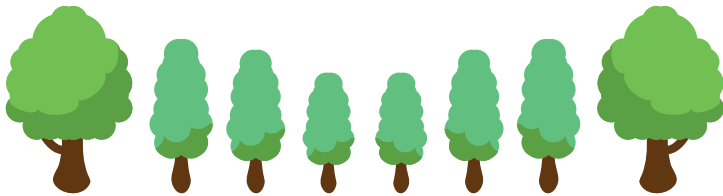
— 木のグラスでワインの味わいは変わりますか

口当たりがとてやさしく、木の香りとワインの香りの相性が良いです。ワインの色が見えないのはどうかと言っていた父も好んで使っています。また、木材は熱伝導率が小さいので、長時間グラスに入れっぱなしでも品質

の変化が小さいのもメリットだと思います。

— 今後取り組んでみたいことを教えてください

ワイングラスを含め、木地師が作る器はどうしても高価になりがちです。このため、サブスクで気軽にお試しください。ただける仕組みを開始する予定です。また、ヨーロッパへの輸出にもトライしたいです。





自転車

2022年優秀賞(林野庁長官賞)受賞



カネモク工業(株) (東京都)
代表取締役 金子克彦さん

趣味が高じての木製自転車の製作

— 元々は何を作っている会社なのか教えてください

空港の免税店の化粧品売り場のショーケース棚を多く作ってきました。土台の木材に塗装し、金属、プラスチックや電飾などを施すので、様々な素材を扱ってきました。

— なぜ木の自転車づくりを始めたのか教えてください

中学生のころからサイクリング部に所属し、自転車を改造したりするのも興味でした。2002年に、高島屋から江戸開府を記念したイベント用に何かないかというオーダーがあった際、北海道産材の合板を高周波で曲げて

— 製造過程で苦労した点を教えてください

競技用なので、軽量化が課題でした。軽量化したために、強度試験に4回も落ちました。振動が規定を超えているとか、接着した金物が抜けたとか、熱による影響など、様々な指摘をクリアする必要がありました。それでも、本業

で多様な資材を使っていることが、指摘をクリアしていく上で役立ったことでもありますし、本業にも良い学びとなりました。

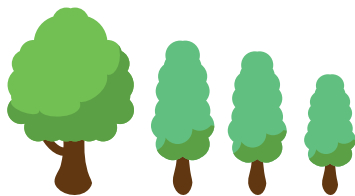
— 木の自転車のメリットを教えてください

何といっても目立つこと(笑)。日本人は遠目から気にしてくれているのは分かっていますが、この間銀座を走ったら、外国人の方から、どこで購入

したのか、値段はいくらかと質問攻めにありました。先日ハワイで開催される160kmのレースに参加しました。無事に完走することができ、耐久性の確認とPRができました。

— 今後の夢を教えてください

日本の森林のために、今使っべき木の需要につながるよう、様々なものを作っていきたいです。



地域

横断防止柵 「アーバンウッドレール」

2021年受賞



(有)エム工房
(和歌山県紀の川市貴志川町)
道上宏さん

FRP技術も活かし木製防止柵を開発

— 元々は何を作っている会社なのか教えてください

20年ほど前は、FRP（ガラス繊維入り強化プラスチック）製の擬木^{（まけ）}で、落石防護柵支柱の化粧カバーやパーゴラのルーバーなどを製作していました。公共空間でも景観の向上を求められ始めた年代でした。

— なぜ横断防止柵を木で作ることになったのか教えてください

弊社は公共工事関連の受注が多いのですが、発注者の国産材利用の意識が高まり、それに応えるには「本物の木」の製品開発が急務と考えました。まず、

砂防用堰堤の施工後に除去の要らない型枠や、堰堤を巨石から防護する木製緩衝材を開発しました。これらの実績から自信を持ち、木材の利用量を更に増加させることを目指して、「アーバンウッドレール」の開発に取り組みました。

— 製柵化の際に苦労されたことを教えてください

木製防止柵は安全上の配慮が欠かせません。突起物といったケガを誘発するものはないか等、設計の段階から様々な検討を行いました。都市部の環境でも違和感の無いスレンダーなデザインも重視しました。

支柱上部にFRP製のキャップを取付け、支柱部と横ビームは自在性を持たせた独自の金物を装着するなど

「耐久性」「メンテナンスのしやすさ」「施工性」にも配慮しています。このため、設置後20年を超えるウッドレールが現役で活躍しています。

— 木で作ったことによるメリットを教えてください

一番は見た目の「やさしさ」、そして「触感のあたたかさ」です。その点は鉄等の他素材の製品などに勝るところだと思います。

— 今後の展開を教えてください

自動車乗入れ防止用「車止め」、イベントなどでの利用する「子供用プランク」などの製品バリエーションを増やしていきます。森林組合等とも連携し、各地域材の特徴ある製品作りにも挑戦したいと考えています。

